

(3) 調査の内容

① 学校調査事項

- a 勤務時間の割り振り
- b 教職員会議
- c 旅学旅行

② 教員調査事項

- a 補習指導
- b クラブ活動
- c 間接授業指導
- d 承認研修
- e 管理教務事務
- f 学級経理事務
- g その他の事務

(4) 調査の方法

- ① 校長は、学校調査票を作成するとともに、教員調査票を審査し、教育委員会に提出した。
- ② 教員は、教員調査票を作成した。

6 小学校、中学校学力診断

(1) 目的

本県における小学校、中学校児童・生徒の学力の実態を診断し、学習指導の改善に役立てる資料とする。

(2) 実施した学年・教科

小学校 第5学年 国語・算数
中学校 第2学年 国語・数学

(3) 実施の対象

県内の小学校、中学校の中から無作為にそれぞれ10%の学校を抽出して協力を依頼し、小学校については第5学年、中学校については第2学年の全児童・生徒を対象とした。ただし、特殊学級の児童・生徒は除いた。

種別	教科	学校数	児童生徒数
小学校	国語	29	1,969
	算数	29	1,970
中学校	国語	15	2,551
	数学	15	2,458

(4) 実施期日と時間割

昭和43年2月27日(火)
〔小学校〕

	9:20~9:30	9:30~10:25	10:45~11:35
国語または算数	実施上の諸注意	第I部	第II部

〔中学校〕

	9:20~9:30	9:30~10:30	10:45~11:45
国語または数学	実施上の諸注意	第I部	第II部

※領域間の諸指示の時間も含む。

(5) 診断のための問題

福島県教育研究所の作成による標準化された診断的学力検査問題を使用した。

(6) 調査の結果

- ① 領域別・県平均・標準偏差・変異係数
- ア. 小学校5年

教科	形式	領域	小問数	粗点平均	標準偏差	変異係数	100点換算平均	
国語	I	読語	字句①	37	29.1	8.2	28.2	78.6
			②	34	27.0	8.4	31.1	79.4
	II	読解	読解鑑賞③	13	8.8	3.0	34.1	67.7
			④	10	6.4	2.6	40.6	64.0
算数	I	数と計算	数概念①	23	17.0	5.7	33.5	73.9
			計算②	23	15.9	6.3	39.6	69.1
			問題解決③	14	7.8	3.8	48.7	55.7
数学	II	量と関係図	測定係数①	19	13.3	5.4	40.6	70.0
			②	19	13.8	4.9	35.5	72.6
			③	15	9.9	3.3	33.3	66.0

イ 中学校2年

教科	形式	領域	小問数	粗点平均	標準偏差	変異係数	100点換算平均	
国語	I	読語	字句①	33	23.1	8.8	38.1	72.2
			②	32	19.8	6.6	33.3	61.9
	II	読解	読解鑑賞③	15	7.5	3.8	50.7	50.0
			④	9	5.4	2.2	40.7	60.0
数学	I	数式	①	17	10.4	4.9	47.1	61.2
			②	32	18.4	9.5	51.6	57.5
			II	数量関係図	①	14	7.2	4.4
②	12	3.6			3.6	100.0	30.0	
			③	18	9.3	4.3	46.2	51.7

100点満点の換算点からみると、小学校5年においては、どの領域においても50点以上をしめ、国語の総合平均は70.5、算数は67.9である。しかし、中学校では国語の③④、数学の②が50点未満である。中学校の最も高い領域の平均は①の72.2で、最低は②の30.0である。領域間の平均の格差が大きい。

総合平均においても、国語が56.1、数学が50.4で、小学校に比べて劣っている。

変異係数をみると、一般に小学校は数値が小さく、中学校では大きい。概観的には、中学校は小学校より個人得点のひらきが大きいものと考えられる。

② 地域類型別・学校規模別にみた学力

地域類型は、昭和41年度全国学力調査で分類した「市街地域」と「市街地以外」の2類型とした。

学校規模は大規模(701人以上)、中規模(201人~700人)、小規模(200人以下)の3種類とした。

地域類型、学校規模の標本校数は次のとおりである。

	大規模	中規模	小規模	計
小国	3	1	—	4
小国	2	15	8	25
小算	3	1	—	4
小算	1	16	8	25
計	9	33	16	58
中国	2	—	—	2
中国	2	9	2	13
中数	2	1	—	3
中数	1	8	3	12
計	7	18	5	30